

都道府県・ 指定都市番号	44	都道府県・ 指定都市名	大分県	研究課題番号・校種名	2(4)・高等学校
				領域名	E S D
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名(児童・生徒数)	おおいたけんりつおおいた おぎのだいこうとうがっこう 大分県立大分雄城台高等学校 (674人)				
所在地(電話番号)	大分県大分市大字玉沢 1250 番地(097-541-0123)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://kou.oita-ed.jp/oitaoginodai/index.html">http://kou.oita-ed.jp/oitaoginodai/index.html</a>				
研究のキーワード	「大分雄城台高校が育成したい6つの資質・能力」 「単元配列表」 「単元デザインシート」 「OGI学プロジェクト」 「人間関係づくりプログラム」				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育目標を具体化する「大分雄城台高校が育成したい6つの資質・能力」の明確化</li> <li>○ どの時期に、どの教科・科目でどのような力を育成するのか、それを総合的な探究の時間にどうつなげるのかを見える化する「単元配列表」の作成</li> <li>○ 各単元でどのような力を育成するのか、そのためにはどのような学習過程で学ばせ、どのように評価するのかを明確にするための「単元デザインシート」の作成</li> <li>○ 興味・関心とSDGsと進路の方向性を関連付けた「OGI学プロジェクト」の実施</li> <li>○ 資質・能力育成の基盤となるOGIメモ(本校独自のメモ帳)を活用した「人間関係づくりプログラム」の実施</li> </ul>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

E S Dの視点を踏まえた授業とSDGsを題材とした総合的な探究の時間の教科横断的連携による「持続可能な社会の構築に貢献できる資質・能力」を育成する指導と評価の研究

### (2) 研究主題設定の理由

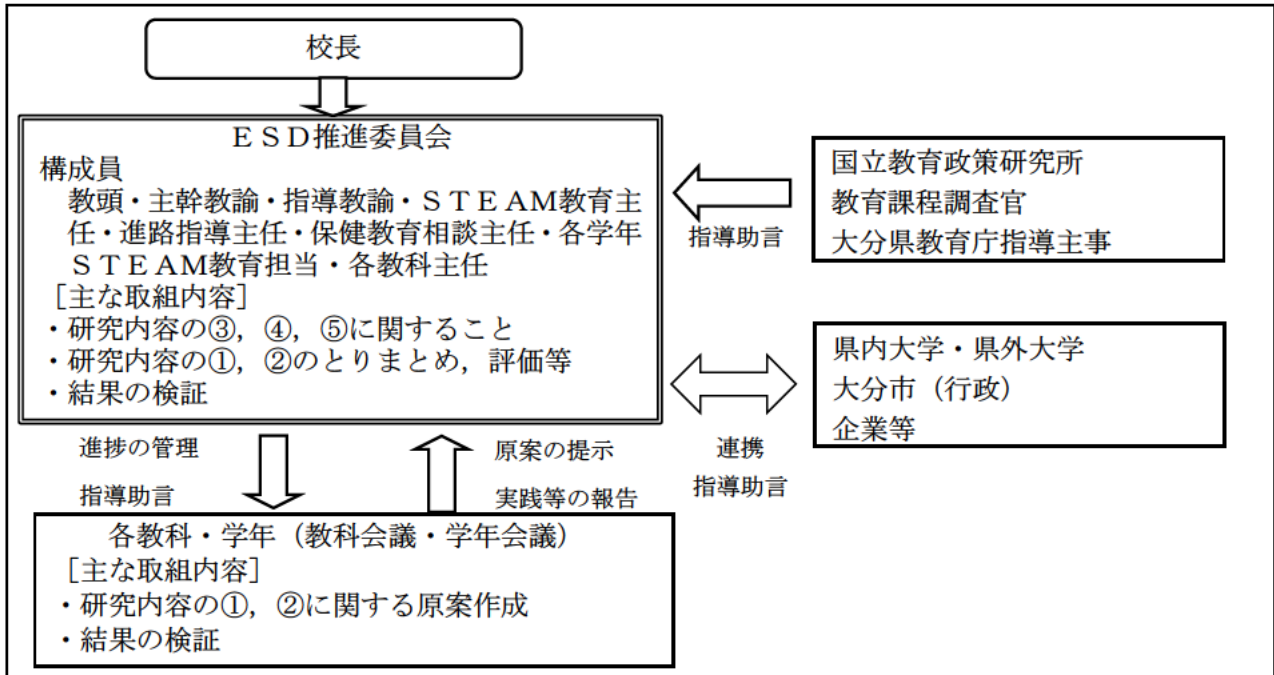
本校の教育目標である『誠実・自主・創造』の校訓のもと、社会において逞しく生き抜き、積極的に社会貢献できる生徒の育成の具現化に向けて、全教科・科目を挙げて「読解力」と「表現力」の育成に焦点を当てた組織的な授業改善に取り組んでいる。また、総合的な探究の時間では、SDGs(持続可能な開発目標)と生徒のキャリア形成の方向性とを関連付けた探究活動に令和元年度から取り組んできた。

各教科・科目で学んだことを総合的な探究の時間に生かしたり、総合的な探究の時間での学びを各教科・科目等に生かしたりすることが不十分であり、学校での学びが実社会でどのように役立つかを実感できずに、教科を学ぶ意義や有用性を見いだせない生徒が多く、社会とのつながりを意識して社会や地域の課題を発見する力や解決する力、他者と協働して課題解決に向けて挑戦していく態度等を発揮する機会を創出し、生徒たちに社会や地域とのつながりを実感させ、未来に向けた広い視野を醸成することが課題であった。

そこで研究に際しては、E S Dの視点に立って、本校で育みたい持続可能な社会の構築に必要な資質・能力を「情報整理力」「課題解決力」「発信力」の3つの能力と「協働」「自他の尊重」「チャレンジ精神」の3つの資質として整理し、これらの資質・能力の育成に向けた各教科・科目及び総合的な探究の時間の3年間の指導と評価の計画を作成した。

この研究を通して、E S Dを媒介として各教科等の単元内容や教材とのつながりを見える化する教科等横断的な学びの視点と、E S Dの視点から育成を目指す資質・能力や学習過程を整理した総合的な探究の時間及び各教科・科目の単元デザインによる系統的な学びの視点とを生徒、教員の双方で共有する。それにより、生徒が社会や地域とつながり、そのつながりの中での実践的な経験を積み、「持続可能な社会の構築に貢献できる資質・能力」を育成することができると思え、本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組 (☆生徒対象 ★教員対象)

令和2年度	4月	★職員研修 ☆生徒向けガイダンス ★各教科による単元デザインシート作成 (～3月)
	5月	☆OG Iメモを活用した人間関係づくりプログラムの開始 (毎週月曜日～3月)
	6月	☆「SDGsまちづくりアイデアコンテスト」を利用した探究活動
	7月	★第1回校内授業研究会 ☆アンケートによる生徒の実態調査 ★職員研修～単元配列表・単元デザインシートについて
	8月	☆ESDに関するルーブリック評価の実施 ☆SDGsを踏まえた地域課題研究テーマ決め
	9月	★各教科による単元配列表の作成 (～12月) ★第2回校内授業研究会
	10月	★ESD教育課程研究指定事業中間報告会 (主任視学官による指導・助言) ☆SDGsを踏まえた地域課題研究レポート作成 (～1月) ★各教科による単元デザインシートの作成
	11月	★職員研修～単元配列表・単元デザインシートの作成
	1月	☆アンケートによる生徒の実態調査, ESDに関するルーブリック評価の実施
	2月	☆ESD生徒成果発表会
令和3年度	4月	★職員研修 ☆生徒向けガイダンス ☆OG Iメモを活用した人間関係づくりプログラムの開始 (毎週月曜日) ★各教科による単元デザインシート作成
	5月	☆探究ソフトによる思考ツールの活用 (1年生) ☆SDGsと進路の方向性を踏まえた探究活動テーマ決め (2年生) ☆★ESDの視点を踏まえた授業と評価の実施 (5月～8月) ★各教科による単元配列表の作成 (～12月)
	6月	★第1回校内授業研究会 ☆探究ソフトを活用した探究活動 (1年生)
	7月	☆SDGsと進路の方向性を踏まえた探究活動レポート作成 (2年生) ☆アンケートによる生徒の実態調査, ESDに関するルーブリック評価の実施 ★職員研修～単元配列表・単元デザインシートによる指導と評価について
	8月	☆★ESDの視点を踏まえた授業と評価の実施 (8月～12月)

令和3年度	9月	☆SDGsを踏まえた地域課題研究（1年生） ☆ESDの視点に立った九月祭（文化祭）の実施 ★各教科による単元デザインシートの作成
	10月	★第2回校内授業研究会 ★ESD教育課程研究指定事業中間報告会（主任視学官による指導・助言）
	12月	☆探究活動成果学年発表会（1，2年生） ☆アンケートによる生徒の実態調査，ESDに関するルーブリック評価の実施
	1月	★職員研修～単元配列表・単元デザインシートの完成
	2月	☆ESD生徒成果発表会

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- ① 各教科・科目での学びの成果を総合的な探究の時間に生かすための単元配列表を完成させる。
- ② 全ての教科・科目及び総合的な探究の時間で単元デザインシートを生徒と共有して授業を実施し，単元ごとに評価（観点別評価）を行う。
- ③ ESDの視点に立った総合的な探究の時間の大分雄城台高校のカリキュラム（OGI学プロジェクト）の完成に取り組む。
- ④ OGIメモを活用したペアワークによる構成的グループエンカウンターを短時間・継続的に行う人間関係づくりプログラムを実施して，他者理解や自己理解を促し，メタ認知能力の向上を図るとともに，「協働」や「自他の尊重」を育成し，学びの基盤づくりを行う。
- ⑤ ESDの視点に立った生徒の主体的な活動（学校行事，生徒会活動等）の活性化を図る。

### (2) 具体的な研究活動

#### ① 単元配列表

- ・どの時期に，どの教科・科目でどのような力を育成するのか，それを総合的な探究の時間にどうつなげるのかを見える化するとともに，各教科・科目の学びとESDとのつながりについても見える化する「単元配列表」の見直し・改善に取り組んだ。
- ・4月の職員研修の中で，令和2年度に作成した単元配列表の共有と今後の見直し・改善について提案を行った。（「学習内容ベース」から「資質・能力ベース」のものへ）
- ・8月の職員研修の中で，単元配列表と単元デザインシートのつながりについて整理を行うとともに，身に付けさせたい資質・能力の検討・整理を継続した。
- ・1月の職員研修で，学年ごとに育成したい6つの資質・能力のバランスを検討・整理した。

#### ② 単元デザインシートの共有と評価（観点別評価）

- ・各単元でどのような力を育成するのか，そのためにはどのような学習過程で学ばせ，どのように評価するのかを明確にするための単元デザインシートのマニュアルを作成して教員間で共有した。
- ・「身に付けさせたい力 → 論述課題 → ルーブリック評価」の一貫した指導を意識した単元デザインシートの作成を行った。
- ・全ての教科で1学期に1単元，2学期に2単元，3学期に1単元，単元デザインシートを生徒と共有して，授業の実施と評価の実践に取り組んだ。
- ・職員研修会（8月・1月）で，単元デザインシートによる観点別評価の研修を実施した。

#### ③ OGI学プロジェクトの完成

- ・総合的な探究の時間のOGI（Oita・Global・Inspiration）学プロジェクト～Inspire globally in Oita（大分から世界への創造的なひらめきを学ぶプロジェクト）を継続して行った。
- ・6月にESD講演会を実施。京都芸術大学芸術学部情報デザイン学科准教授吉田大作氏を講師に招いて，探究活動における「問いの立て方」や「情報収集」，「プレゼンテーションの考え方」についての講演とワークショップを実施した。
- ・1年生はタブレットを活用して，探究ソフトによる探究の基礎学習と探究活動を行い，SDGsを題材に，地元大分市を中心とする地域の活性化に向けた，地域課題の発見及びその解決方法についての探究活動を行った。
- ・2年生はSDGsと自身のキャリア形成の方向性を意識した探究活動を行った。

- ・探究ソフトを活用して、地元大分市を中心に、地元産業や企業との連携強化を図り、地域の人的・物的リソースを活用して、探究活動を実施する計画であったが、コロナ禍で予定通り実施できなかった。今後は、遠隔配信による連携を強化していきたい。

#### ④ OGIメモを活用した人間関係づくりプログラム

- ・毎週月曜日の朝学習の10分間で、OGIメモの1週間の振り返り欄を使い、先週の振り返り内容（ほめポイント・さらにポイント・来週に向けて）を記入し、終礼時の6分間で、ペアワークで振り返りのシェアリングを行い、その後相手の手帳のメモ欄に応援メッセージを記入する（適切な自己開示・傾聴・相手への前向きな声かけ等のスキルを身につけ、基本的人間関係づくりを体験）人間関係づくりプログラムを実施した。
- ・7月と12月にOGIメモ活用に関する生徒アンケートを実施し、その結果を基に、OGIメモの活用強化と人間関係づくりプログラムの今後の取組について協議した。
- ・1月にOGIメモコンクールを実施して、主体的に活用している生徒にESD生徒成果発表会で活用状況を紹介してもらい、主体的な活用の促進を図った。

#### ⑤ 生徒の主体的な活動（学校行事、生徒会活動等）の活性化

- ・学校行事の実施要項には、目的に加えて、該当行事を通して本校が育成したい6つの資質・能力のどれを重点的に育成するのかを記載するようにした。
- ・学校行事の実施後には、一人一台タブレットを活用して生徒にアンケート調査を実施し、身に付けさせたい6つの資質・能力に関する自己評価を行った。
- ・生徒会活動では、専門委員会ごとにターゲットにするSDGsを定めて活動した。
- ・大分大学と連携したチャレンジ講座（遠隔配信）や学問探検ゼミ、地域の小中学生を対象とした学習支援ボランティアに積極的に参加した。
- ・科学部、放送部、新聞部等がSDGsへの貢献を意識した研究や調査を行い、全国高等学校総合文化祭等でその成果を発信した。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 2年間で、6つの資質・能力の全てのESDルーブリック評価のレベルと、アンケートによる生徒実態調査の肯定的な割合が上昇しており、生徒の変容が見られた。
- 育成したい資質・能力を整理することで、教育目標の具体化・共有化を図ることができた。
- 単元配列表・単元デザインシートにより、身に付けさせたい資質・能力を意識した授業や探究活動が行われるようになった。
- 単元デザインシートを生徒と共有して、授業を実践し、観点別評価を行うことができた。
- 大分雄城台高校の3年間の探究活動のサイクルが定まり、探究テーマとSDGsの関連を意識した探究活動に取り組めるようになった。
- OGIメモを活用した人間関係づくりプログラムの実施により、適切な自己開示、傾聴、相手への前向きな声かけ等のスキルを体験することができ、自己理解や他者理解を深め、「協働」や「自他の尊重」を育成し、学びの基盤づくりを行うことができた。
- ESDの視点に立った生徒の主体的な活動（学校行事、生徒会活動等）の活性化を図ることができ、学校全体のSDGsについての理解が深まった。
- 「課題解決力」と「発信力」の育成が、引き続き本校の課題である。
- コロナ禍を受け、2年間を通して授業や探究活動及び学校行事等校内外の活動に様々な制約があり、不十分な取組があった。
- 単元配列表における6つの資質・能力の育成のバランスを検証し、教科・科目と総合的な探究の時間との資質・能力ベースでのつながりを更に整理する必要がある。

### 4 今後の取組

- (1) 生徒、教職員共に、ESDの視点に立った本校で育成したい6つの資質・能力の共有化と育成に向けた取組の明確化を図ることができたので、引き続き、学校全体でESDを推進する。
- (2) 「課題解決力」や「発信力」のさらなる向上のため、外部機関とのネットワークを構築し、今後はオンライン等も活用して積極的に外部機関との交流に取り組む。
- (3) 観点別評価の完全実施に向けて、6つの資質・能力と新学習指導要領における3つの観点とのつながりをより明確にし、「指導と評価の一体化」のさらなる充実を図る。